

梁材の製造状況調査(乾燥、品質管理)

平成23年9月15日に、南部アカマツ振興センター(3名)が梁材の製造調査として中国木材を視察しましたので報告します。

成材の製造を計画しており、外層はベイマツ、内層はスギ材(茨城、栃木県)、製造量は5000m³/月を計画しているとのことでした。

1 ねらい

アカマツの梁材を販売するに当たり、乾燥条件、ねじれ、割れなど品質管理の仕様は、生産コスト、クレーム対策の観点から重要な検討事項となっております。国内で流通する梁材では、中国木材製ドライビームが最も多く、建築関係者の標準的な商品となっております。そこで、中国木材鹿島工場の梁材の製造状況調査を実施しました。



写真1 工場内部

2 工場概要

- (1) 原木消費量(ベイマツ):9万m³
- (2) 製材歩留:約60%
- (3) 従業員:380名
- (4) 発電能力:21,000kw、ボイラー106t/h



写真2 乾燥機

3 乾燥状況

- (1) 乾燥機:容量100m³の乾燥機を130機保有
- (2) 乾燥条件:80℃乾燥、期間は10日間、目標含水率15%、JASはSD20

4 品質管理状況

- (1) 製材品ごとに、含水率、ねじれ、節、削り残しについて目視検査を実施
- (2) 強度等級ごとに分別
- (3) 検査後、ロット番号を印字



写真3 材面の目視検査

5 その他

国産材活用を進めるため、ハイブリット集